

ほつかいどう NIE 通信

Newspaper in Education



発行 北海道NIE推進協議会

〒060-8711 札幌市中央区大通西3丁目6 北海道新聞社内 ☎ 011-210-5802 FAX 011-210-5826



日本新聞協会主催の第22回NIE全国大会が8月3、4日、名古屋市の名古屋国際会議場で行われた。大会スローガンは「新聞を開く、世界をひらく」。関係者ら過去最多の約2千300人が参加した。

天野浩・名古屋大教授が記念講演を行った。続いて座談会として、天野教授、女子レスリング五輪メダリストの吉田沙保里選手、中日新聞社の小出宣昭顧問・主筆、地元愛知県の児童、生徒が意見交換を行つた。写真は開会式に続き、ノ

天野教授が記念講演

名古屋で全国大会 過去最多2300人

一ベル物理学賞を受賞した天野浩・名古屋大教授が記念講演を行つた。続いて座談会として、天野教授、女子レスリング五輪メダリストの吉田沙保里選手、中日新聞社の小出宣昭顧問・主筆、地元愛知県の児童、生徒が意見交換を行つた。写真は開会式に続き、ノ

道徳科の新聞活用に期待

「言語不得意」の子にどう対応



札幌の中学校では、国語教師の経験がある安藤・元教授は、「言語情報の處理が不得意な子どもが近年、増えている」と指摘し、N

北海道NIE推進協議会主催の本年度の地区セミナーが、6月8日の第2回根室地区・根室セミナーを皮切りに始まった。根室セミナーは、根室市の道立根室高で開かれ、日本史の授業が公開された。写真は、根室セミナーが開催された。授業では、樺太に住ん

4日は、新聞を活用した多くの公開授業や実践報告が行われ、2日間の日程を終えた。来年の大会は盛岡市で開く予定。

北海道NIE推進協議会主催の本年度の地区セミナーが、6月8日の第2回根室地区・根室セミナーを皮切りに始まった。根室セミナーは、根室市の道立根室高で開かれ、日本史の授業が公開された。写真は、根室セミナーが開催された。授業では、樺太に住ん

会(高辻清敏会長)主催の第3回NIE北海道セミナーが8月19日、札幌市中央区の北海道新聞本社で開かれ。写真は、林泰

成・上越教育大副学長(58)と安藤修平・元富山大教授(80)による、現在の学校教育の課題に即した二つの講演が行われた。道内の学校関係者ら約50人が参加した。

北海道NIE推進協議会主催の本年度の地区セミナーが、6月8日の第2回根室地区・根室セミナーを皮切りに始まった。根室セミナーは、根室市の道立根室高で開かれ、日本史の授業が公開された。写真は、根室セミナーが開催された。授業では、樺太に住ん

I-Eでの対応法や人工知能(AI)と教育の関わりについて話した。また会場には、加盟各社に講演の後、会場からの質問に講師が答えた。

また会場には、加盟各社がパンフレット類が展示され、参加者が興味深そうに見て持ち帰っていた。(3面に講演の内容)

から提供された子供向け新聞、英字新聞、NIE教材、パンフレット類が展示され、参加者が興味深そうに見て持ち帰っていた。(3面に講演の内容)

本年度地区セミナー開始



実践報告では、根室市立北斗小の福田翔教諭が、記者で使われている言葉を基にした「かるた作り」など同校の実践事例を話した。また別海町立上西春別中の吉田昌弘教諭は、1年生の総合的な学習の時間での記事を使つた北方領土学習の取り組みを報告した。(北見セミナーは3面、釧路セミナーは4面に)

北海道セミナー 講演の内容



上越教育大副学長
林 泰成さん

評価方法も、ペーパーテストだけでなく理解したこと
トを人に伝える能力を評価す
るようになつてゐる。

私は今回の教科化は面白
いと思つた。思つてもいな
かつた「考え方、議論する道
徳」という方向へ進んでき
たからだ。新しい学習指導
要領にも、NIEとも関連
する「問題解決的な学習を
適切に取り入れること」と

には道徳的価値を教えない教育があり、米国の心理学者、コールバーグが提案したモラルジレンマ授業もその一つ。モラルジレンマ授業とは、二つの選択肢のどちらを選んでいいか悩むような教材を基にした討論型の授業。コールバーグが使った例では、ある人が病気で亡くなりそうな妻のために特

問題解決的な学習も有効

示された。

問題解決的な学習とは何か。日本の道徳教育で、大切なのは友情とは、思いやりとはどういうことかなど道徳的価値を教えることと考えられてきた。だが世界には道徳的価値を教えない教育があり、米国の心理学者、コーラルバーグが提案したモラルジレンマ授業もその一つ。

モラルジレンマ授業とは、二つの選択肢のどちらを選んでいいか悩むような教材を基にした討論型の授業。コーラルバーグが使った例では、ある人が病気で亡くなりそうな妻のために特

効薬を買おうとしたが高価で買えず、薬屋は値引きも後払いも認めない。この人は夜、薬を盗みに入った。この行動に賛成か反対か。

コーラルバーグによると、賛否どちらを選ぶかではなく、どういう理由付けをするかが重要。悩むことで考え方の構造が変わり、道徳性が発達するという。道徳的判断の訓練が狙いだ。

NIEの話に入る。道徳科でも教科書は法的な使用義務があり使わなくてはいけないが、学習指導要領に「多様な教材の活用に努めること」「充実した教材の開発や活用を行うこと」とあります。教科書と関連した記事を使うのは可能だ。

第14回オホーツク地区網走セミナー（昨年6月22日、網走市立白鳥台小）で使つた「駆除されるエゾシカ」と「保護されるニホンザリガニ」の記事なら、モラルシレンマ授業が展開でき、教科書の生命尊重と連動させて使える。

記事は作り事ではない現実の問題を取り上げているので、子供たちが自分の事として考えやすくなる。また教科書は完成するまで時間がかかるが、記事は現在進行形の問題を扱うので、自分で考え方間と議論することに向いている。

新聞教材などを使つた討論型授業は、今後も大きな期待が持てる。

実践発表では、北見市立美山小の中嶋由佳教諭が児童を新聞に親しませる国語の授業、網走南ヶ丘高の宮城雄大教諭が才ホーツク管内2高校の新聞局の活動について報告した。

元富山大教授
安藤 修平さん

次の手を編み出すことだ。実践のポイントは対象である子どもをどう認識するかであり、NIEもそこからスタートしてほしい。

る学校教育のやり方に合っている。ところが、B群の子は論理的思考が苦手な「言語不得意タイプ」で、先生の話を受け取りにくい。

だから、NIEでやる二つの記事を比較、分析したりするのは論理的思考が求められ得意ではないが、新聞の写真や広告には反応する。写真から文章に持っていく、また写真に返つて文章に返るといった方法の開発が必要ではないか。文章を比較、分析するのは不得意だから、写真や記事を集めたりする活動からの方が入

働きかせ、未知の世界をより深くイメージできる力だ。

NIEの実践例を増やすべきだ。その際、B群の子を意識した実践を試みてほしい。それを繰り返すこと、「全ての子」への指導となる。そして、NIEの学習にA I時代に向けた要素を加えていくつほしい。

教育に携わる私たちの仕事は、一人一人の子どもの未来に橋を架けることだ。実践なくして橋を架けることはあり得ない。実践とは全ての子どもの事実から考え、論文、試験、全ての子の

り突然キレる攻撃的な子」の4種に分け、①をA群、②③④をB群とした。

A群の子は言語情報処理優先脳を持つ「言語得意タイプ」で論理的思考ができる。ごく少しだけ、言語で行つて

理的思考が苦手な一方、一つの映像や写真の中にあるたくさんの情報を一瞬にして処理できる大量イメージ処理優先脳を持っている。

B群の出番がない。新たな方法が必要になる。

NIEも今のAI時代を視野に入れた指導でなければならない。AI時代の学校や家庭で必要なのは、自らの実体験に基づく想像力を

写真から入る新聞活用も

も合った授業を創ることが
NIEにおいても急務だ。

りやすい。グループの話し合いも得意だ。A群の子がしゃべつて終つてしまって

北海道農業の 役割分かつた 北見セミナー



新聞各紙に躍る「忖度」の文字



「忖度」多用に違和感

易に新聞で使うべきではない。事實を簡潔・明瞭に伝える
ためには、あくまで「新聞」であることを意識する必要がある。
眞面目な言葉はふさわしくない。学校の先生方に新聞記
事を活用してもらう側としては、細心の注意を払いたい。

例えば「忖度（そんたぐ）」。今年の新語流行語大
賞の有力候補にエントリーワードとして選ばれたのは確実だ。安倍政権
と学校法人「森友学園」をめぐる問題が、政治家たちの忖度によ
つて、いつの間にか「政治問題」として扱われるようになっ
たからだ。

日常めったに使わぬ漢語が新聞紙上に躍り、結果的に偏った意味が強調されることは違和感を覚える。こんなマイナーな言葉にニッチな意味をかぶせてはやらせることが新聞の役割ではあるまい。流行語は消えるのが宿命だから、1年後の紙面では見なくなっていると想像して納得するしかない。

とを、新聞用語でネタと言いますが、今号には、NIE全国大会と北海道セミナーという大きなネタが二つ入りました。

ただそうした日の紙面作りは「ある面で楽」とも言えます。入れるべき記事が最初から決まっているので、大きなニュースがない日のように、あれを入れようか、こっちの方がいいだろうかと悩む必要がないからです。新聞作りにおいては、ニュースが多くて苦労しても、ないよりはいいのです。(小)

編集後記



記事を読ませて自分の考え方をまとめさせる面接指導などを紹介した。

難語。隣
寺事通三
記事中の言葉の使い方に
人一倍気を使つた。老若
女が読む新聞記事である
前年の3年9カ月ばかり、
昨年7月に札幌に赴任す
た。整理部デスクを務め
た。新聞紙面を持たな
い。通信社とて整理部はあ
る。各出稿部から記事や写
真、グラフィックなどが集ま
る。誤字・脱字はないか、見
出しは適切か、内容は分か
りやすいか、事実関係に間
違はないかなどを確
認する。最終的に契約先である
新聞社などに配信する責任
を負う。

リレーエッセー 多紙彩々

古めかしい言葉。領土でいふと外信部のデスクを説得し、書き換えさせた。例えば「ぶぜん」。漢字で書くと「憮然」。「失望や不満で、むなしく、やりきれないと誤解して、「気に入らない質問を受けた選手は、ぶぜんとして記者会見場を去つた」などと使った記事があった。某地方紙の整理部デスクから電話があり、既に配信した運動部のこの記事に「時事さんの使い方は間違っているので、『怒つて』に

ぐる関係性や「安倍1強」という政治状況を言い表すキーワードとして脚光を浴び、新聞紙面上で見出しにも登場している。

**北海道農業を
記事から学ぶ**

第16回釧路地区・釧路セミナーが7月14日、釧路市立鳥取中学校で開かれた。釧路管内の教師や報道機関関係者ら30人余りが参加し、同校の林祐史教諭による新聞記事を使った公開授業などを見学した。写真

林教諭は2年生の社会科「地理的分野単元」「北海道農業に関する三つの記事から、稻作、畑作、酪農の特色と課題を生徒に読み取らせた。生徒らは「大規模化」「機械化」といった特色や「後継者不足」「減反政策」などの課題を認識した。

このあと、2教諭が実践報告した。釧路市立新陽小の北岡知樹教諭は、特別支援児童が子ども向け新聞を教材に感想や新しい見出しを書く取り組みなどを報告

北海道農業を 記事から学ぶ